

# A.J.U

## ～すべての障害者に社会的自立を！～

# 1980 第121号

7月に、毎年恒例の臨海学習を…とご報告したいところですが…今年は、なんと、台風の影響で波が高く、海に行くことができませんでした。臨海学習がなくなるなんて、1980史上初！と言って良いほどのショッキングな出来事でした。



代わりに、みんなで岐阜の某温泉施設に行き、のんびり、ゆったりしてきました。

あ～  
いいお湯だったね…

9月には、信州大芝高原に林間学習に行ってきました。

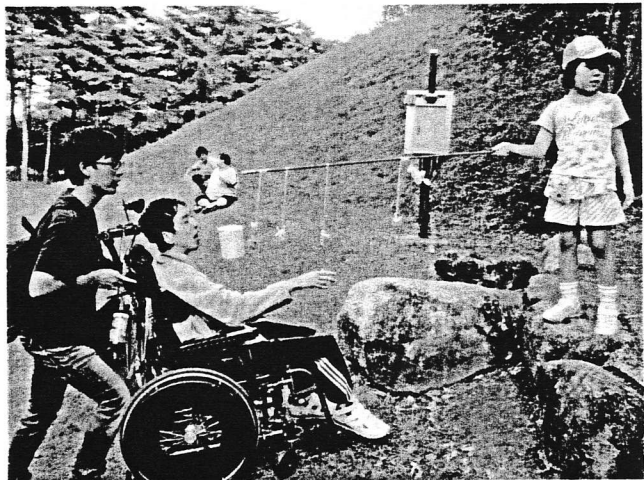
芝生の広場でグループに分かれて、障害物競争をしたり、火をおこしておやつのお団子を作ったり…

また、来年も行こうね！

がんばって 千を

めばいて…

おやつ GET!



みんな集まれ～！！12月19日（土）**クリスマス会** in 北区役所講堂

平成二十七年十一月十七日（毎週火曜日）

AJU通関二〇〇八増刊

昭和五十四年八月一日第三種郵便物認可

## 重度障害者活動拠点「1980 夢」

メンバーと長年関わらせて頂いていると、良い変化、悪い変化、様々な変化を感じさせられます。

ここ最近、Tさんとよく日中活動を行っています。特別支援学校を卒業されたばかりの頃は、呼吸が苦しそうな様子もなく、ごはんも勢いよく食べられていました。けれども、ここ数年は痰が上手く出せず、呼吸が苦しそうな時があり、最近はその期間、時間も長くなってきています。苦しそうな時は、ごはんの食べる勢いも落ちたりしています。

個人差はありますが、人はみんな年を重ねるとともに、身体的な衰えが現れてきます。身体的な障害の重いメンバーはなおさらです。色んな形で機能低下がみられたりします。いつかは・・・と職員として頭では分かっている現実にもそうになってしまうと、Tさんの元気いっぱいだった時を思い出してしまい、残念に思ってしまうことがあります。

けれども、そんなことばかり言っても仕方ありません。目の前で苦しそうにしているTさんが少しでも楽になるよう色んな方法を試してみます。お茶を飲みゴックンして痰を落とす、身体を起こし、上半身を伸ばし、ストレッチしながら、コンコンして、痰を落とすなど様々な方法を試しているうちに呼吸が落ち着いていき笑顔が見られ一安心します。それでも、難しい日ももちろんあり、その時は医療的ケア（痰の吸引）になってしましますが・・・笑顔の素敵なTさんが笑顔で過ごせるよう、できる限り工夫していきたいと思っています。

私たちはどんなに障害が重くても、社会の一員として、自分らしく生きる願いを持ち活動しています。職員に今求められていることは何だろうか？メンバーの課題は何だろうか？を考え、それを越えていくためには、どのように活動したらいいのかということを、日々試行錯誤中です。ひとりひとりのメンバーと向き合い考えていけたらいいなと思っています。

(職員：守田 歩)

\* \* \* \* \*

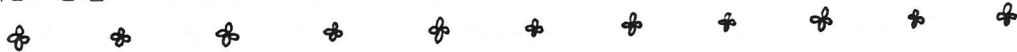
今回は「どうだでよう」について、書きたいと思います。「どうだでよう」は平日の拠点での活動とは異なり、外での活動がメインになります。メンバーは普段とは違うお出かけということで自然とテンションが上がるようです。またお出かけなので、施設の中にいる状況とは違い、外出先では社会のルールやマナーを守らなければなりません。普段とは違う活動を通じて、メンバーの新たな課題を見つけたりすることが

できます。メンバーの自立のために新たな課題をどう解決していくか、支援する側としてどんなことができるのか、はっきりとした答えのない中でも考えることが、メンバーの将来につながっていくのかなと思います。また、街に出ているいろんな活動をする中で、メンバーを知らない周りの人たちに少しでも「重い障害を持った人たちがいる」ことを伝えられたら・・・という思いのもと、私は毎月1回、「どうだでしょう」を担当をしています。

事前に下見に行ったときに、「ここは楽しめるかもしれない!」「ここはこういう予定にすれば時間的にうまくいくだろう」「大丈夫だろう」と思って、いざ当日行くと、思ったほど楽しめていなかったり、予定通りになかなか進められなかったりという経験をし、「どうすればもっと上手くできただろうか?」という反省が自分にたくさん返ってきます。こういう経験や反省はいずれは自分自身の成長になると感じています。

また、土曜日だけ参加されるメンバーとの月1回の関わりの中で学ぶこともたくさんあります。私がどよメンバーのKさんについてプールに行った時のことです。自閉症であるKさんはこだわりが強く、その時もシャワー室の排水溝のふたを直したり、蛇口を全部同じ向きに直したりしていました。その日は、勢い余って他の人が使用しているシャワーの所に入ってまで排水溝のふたを直しにいかうとしていました。その時の自分はそこまで予測していなかったもので、驚いた反面まだまだメンバーの知らないことは沢山あるんだなと痛感しました。そしてその時のKさんに対して、Kさんなりのこだわりを大事にしてあげたい気持ちと、どう声掛けして止めるべきだったのか・・・と悩みました。

最近ではメンバーとの何気ない関わりの中で、自分自身に余裕がなかったりすると、なんとなく関わっていたりすることがあったりします。もちろん「どうだでしょう」の企画は大事だと思います。でもそれ以上に、メンバーひとりひとりのことも見て、関わりを考えていかないとと改めて感じました。これからもおでんのメンバーと一緒に「どうだでしょう」に参加して、メンバーのまだ知らない一面も知り、学んでいきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。(職員：年光 弘明)



1980夢に通うメンバーの中に、知的障害がありますが、身体に障害はないT君という方がいます。T君は、毎日、以前の活動拠点まで歩き、花の水やりをすることと、廃品回収のため地域の方達が持ってきてくださったアルミ缶を建物の裏へ運び、スチール缶などを除き、アルミ缶をつぶして袋に入れるという取り組みをしています。この取り組みを始めてもうすぐ1年が経ちますが、T君は早い段階で仕事内容を覚え、今では手慣れたもので、自分からどんどんやらなければならないことを進めています。

どのメンバーの活動にも目的があります。T君のこの取り組みでは、体を動かすこ

とで体力を維持すること、もう一つT君が自分で判断して行う力をのばすことができたら・・・と考えています。汗をかいたら自分で気づき替えることができたり、本人が自主的に行える作業を任せることで、自分の役割を意識して頑張れたらいいなと思っています。

今では「今日は雨だから水やりはいいよね」などと私に確認し、天気に応じて作業を行うこともできるようになってきました。また、最近では、自分で信号を見て渡ることができたり、「こっち（の道から行きたい）」と自分の決めたルートを意思表示してくれることも多くなりました。しかし、まだまだ小さな声のことも多いですが・・・。

日々の取り組みを通して、T君が社会の中での役割を担い、それを一つの自信にして、どんどんいろんなことに挑戦していけたらいいなと思っています。

（職員：小池麻衣子）



## 臨海学習 → 温泉旅行



1980では、「7月」と言えば「臨海学習！」と言ってしまえるほど、臨海学習の歴史は古く…とにかく、毎年毎年欠かさず、障害の重いメンバーと一緒に南知多の山海や内海の海岸に繰り出していました。今年もちろん、5月から準備を進め、雨の降る中、メンバーと一緒に民宿や海岸の下見にも行ってきました。

ところが…臨海学習当日、台風が通り抜けた後の海の波が高く、臨海学習を断念せざるを得ない状況になってしまいました。当日の早朝にもかかわらず、民宿にキャンセルの電話をかけると、「この波の状況では、危ないから仕方がないですよ。残念ですけど、また来年お待ちしておりますね。」と優しい言葉をいただきました。

ただ、この日の為に予約した福祉バスはキャンセルできないので、事務局の方に変更をお願いし、運転手さんにご協力いただき、急遽、行き先を岐阜の某温泉施設へと変更しました。

初めて訪れる施設の為、一応、事前に電話連絡を入れ、30名以上で利用すること、車イスのメンバーのことについて、了解を得てから出かけたのですが…着いてみると、いきなり、「施設内では、安全の為、こちらがご用意させて頂いている車イスしかご利用いただけません。」と言われました。準備していただいている車イス（それもたったの2台）は、ごくごく一般的な車イスで、身体の大きさも様々で、変形もあり、座位をとることもできないメンバーにはとても利用できないものでした。

担当の方に、メンバーの様子を見て頂き、理解を求めたのですが、「事前の説明をしたつもりだが、伝わっていなかったようですね。こちらの施設の決まりなので、守って頂きたい。」の1点張り。そのうち、施設の代表者の方が現れ、「今日はイベントを

行く日だから、利用者も多いんだ。そんな車イスで何人も入られたら、事故が起これば知らんよ。」と捨て台詞を言って、怒って去って行かれました。

私もつつい頭に血が上り、「障害の重い方たちは、利用しないでほしいということですか？それなら、最初からそう言ってください。」「わざわざここまで、バスに乗ってきたのに、車イスの方たちだけは帰れということですか？車イスだからといって利用できないのは、公平じゃないと思います。最近、どこの施設も、高齢者や障害者も含め、みんなが使いやすいようにとご理解いただけるようになってきているのに、ここは違うんですね。」と、売り言葉に買い言葉…になってしまいました。

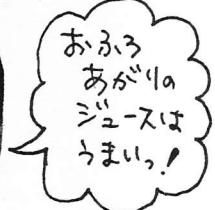
さすがに、担当者の方も、「先ほどの代表の言葉は適切ではないと思います。申し訳ありません。」と謝られ、最終的には、「事故が起きてはこちらは保証できない。」「他のお客様のご迷惑にならないよう、注意を払ってほしい。」と念を押され、利用することができました。

正直、“今どき、障害者の方に向かってこんなことを平気で言うてしまう施設があるとは…”とびっくりしました。

20年近く前、私がメンバーに関わり始めた頃には、“よくある話“でした。そんな壁“にぶつかる度に、メンバーの姿を見て頂き、矛盾を訴え、理解を求めてきました。”メンバーの存在自体が、高齢者や障害者はもちろん、誰もが住み良い社会へと変えていくのだ“と信じ、戦ってきました。

私たちの小さな力がどこまで役に立ったかはわかりませんが、今では、街に出れば、障害者が利用できるトイレやエレベーターが当たり前のように準備され、困っていると声をかけて頂ける状況が増えてきました。でも、今回のことで、”施設などのハード面は改善されても、人の心はなかなか変わらないものだなあ…”と改めて感じ、”メンバーとともにやらなければならないことはまだまだ沢山ある“と思いました。

当のメンバーは、海には行けなかったものの、バスを楽しみ、ゆったりと温泉につかり、昼食をモリモリ食べ、(人によってはおやつも食べ…)それなりに満喫して帰てくることができました。こうしてメンバーに楽しんでいただけるのも、この日の為に力を貸して下さったボランティアさん、バスの運転手さん、民宿の方…たくさんの方のおかげだと改めて実感することができました。(職員：足立由紀)



## 学生ボランティアサークル おでん



### ～ショートステイを通して～

私は8月におでんのショートステイという行事のチーフと、ひとりひとりのメンバーのショートステイを企画する組長をやらせていただきました。今年は「ショートステイのプログラムを考えること・そのプログラムを実行していくことを通してメンバーとの関わりや自分自身のことについて考えよう」という目的をたててショートステイを行いました。

それぞれの組長がプログラムを考えて実行していく中で、自分にはこんな部分があるのかもしれないと考えたり、人からみてメンバーと自分とのかかわりはこんな風に見えていると知ったり、人からの自分への意見をきいてそれについて考えて自分の考えを確立していったりすることがあったように思います。

私はプログラムを考えていく中で、途中でなにをやるかに行き詰まり、自分がやりたいことなんて何もないのではないかと、メンバーと関わるときに何も考えられていないのではないかと悶々としたり、一緒にショートステイをやらせてもらったMさんとかかわる中で、全身で自分の伝えたいことを表現するMさんに驚き、自分にはないものだと感じたりしました。また、何かしたいことがあると体がたくさん動いてしまうMさんに対して「それは分かったけれどまずは落ち着いてください。今はトイレの時間」などと注意することが最初の頃は苦手で、人とかかわる中で人の意に反することをしたくないと思っている自分がいることに気がついたり…ということがありました。

ショートステイをやる前は正直、ショートステイだからできることってなんだろう、ショートステイをメンバーの生活や自分の生活に生かすことはできるのだろうか、と迷ってばかりだったけれど、自分が主体となってやるからこそ、自分がメンバーとやりたいことをつきつめることができました。また、ショートステイ当日だけでなく、それまでのメンバーとの関わりが積み重なったうえで自分が考えたプログラムをメンバーと一緒に実行できるというのはやりがいのあることだと思うしなかなかできることではないなと今は思います。ショートステイの経験を今後の人との関わりやおでんの活動につなげていくことができたらと思います。

(ショートステイチーフ：廣瀬美香)





## ～林間学習～

今回私はおでんのぼしょうと一緒に林間学習のチーフをやらせていただきました。おでん3年目にして初めてのチーフであり、不安が多くありました。一番の不安は自分が思うように予定通りにいかない不安でした。私は臨機応変な対応がとても苦手であり、事前に自分のために大体の流れを作っておきたいのですが、キャンプはそうもいきません。意図していない状態になるとどうしてもすぐに対応ができず、逃げ出したいくなります。今までは、そんなとき耳を塞いでしまったり、頭のどこかで言い訳し自分を正当化したりして逃げていました。クリスマス会の企画をやらせていただいても、昨年のキャンプのファイヤー長をやらせていただいてもどうしてもそうなりません。自分でも自分が何をしたいのか、何を考えているのかわからない時さえあります。チーフという責任のある逃げ出せない立場になったとき、自分はどうか、自分では目を逸らしている自分に気付けるのではないかと、思ってチーフに立候補しました。

実際に今回やってみて、私はやっぱり不安でいっぱいになってしまいました。副チーフ、他にもファイヤー長や料理長もおり、みんなで話し合いながら一緒にキャンプを作っていこうと思っていたのですが、その人たちとうまくコミュニケーションが取れず、最終的には一方的に押し付ける形になってしまった部分が多くありました。こちらから働きかけて全体の進行を把握しておく必要があるのに、自分のことで精一杯になり、かつ思っていたように進まないイラつきから嫌になりかけていた部分もあったのだと思います。他者に自分の気持ちを押し付け過ぎていたのだと思います。ただ相手に求めて気持ちを押し付けるのではなく、これでダメならこうしようとか、直接一緒に考えられるよう自分から歩み寄ったりする余裕がありませんでした。この部分が自分の弱さであり、チーフをやり改めて実感した出来ていない部分だと思います。

今回のチーフは、私に不足している部分が多く、チーフとしての役割が出来ていない部分がたくさんありました。職員さんや親の方、他のおでんの人にいろいろ助けていただき、やっとできたものだと思います。本当にありがとうございました。

(林間学習チーフ 村瀬 恵)



←スタンプ大会に？…